

## 学位論文要旨

異文化間を移動する人々の文化施設における学び  
—ニューヨーク公共図書館における移民に向けての  
英語教育プログラムをとおして—

永田 祥子

## I. 論文題目

異文化間を移動する人々の文化施設における学び  
—ニューヨーク公共図書館における移民に向けての英語教育プログラムをとおして—

## II. 論文目次

### 序 章

- 第一節 問題の所在と研究の目的
- 第二節 先行研究の検討
- 第三節 研究方法

### 第一章 アメリカにおける公共図書館の社会的意義

- 第一節 公共図書館をめぐる法的規定と政策の変遷
- 第二節 公共図書館を利用する人々の変遷
- 第三節 公共図書館の教育的役割

### 第二章 ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラム

- 第一節 英語教育プログラムの理念と意義
  - 第一項 ニューヨーク市の状況と英語教育プログラム
  - 第二項 図書館のアウトリーチ・サービスとしての英語教育プログラム
  - 第三項 図書館の使命について
- 第二節 英語教育プログラムの実際
  - 第一項 ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムの概要
  - 第二項 ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムのカリキュラム
  - 第三項 ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムの教材
- 第三節 英語教育プログラムの課題

### 第三章 ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムにおける学び

#### —参与観察とインタビューからの考察—

- 第一節 参与観察・インタビューの結果
  - 第一項 参与観察・インタビューの概観
  - 第二項 参与観察の結果
  - 第三項 インタビューの結果
- 第二節 英語教育プログラムにおける学びの特徴
  - 第一項 学びについて
  - 第二項 英語教育プログラムにおける受講生の学び

第三項 英語教育プログラムにおけるコーディネーターと教員の学び

第四項 まとめ

補論 ニューヨーク市の博物館や美術館における学び

第一項 博物館や美術館における英語教育プログラム

第二項 テネメント博物館における英語教育プログラム

第三項 ホイットニー美術館における英語教育プログラム

第四項 CALTA21 における英語教育プログラム

第五項 まとめ

## 終 章

第一節 研究のまとめ

第二節 日本の公共図書館の日本語教育プログラムへの示唆

第三節 今後の研究課題

謝 辞

参考文献

資 料

### III. 論文要旨

## 序章

### 第一節 問題の所在と研究の目的

ニューヨークの図書館における移動する人々の学びに関心を持った背景として、筆者自身がニューヨーク市の小学校に入学し2年間過ごした後、日本の小学校に入学し、アメリカと日本の文化の違いを経験したことを挙げるができる。自分とは異なった文化や言語に出会ったときの戸惑いや新しい気づき、そしてその土地に馴染むにつれ母国や母国語とのつながりへの変化などを感じ、異なる文化や言語のもとに置かれた人のアイデンティティへの関心が、文化施設における教育への関心と繋がっている。

筆者は2011年から2012年にかけてニューヨークのコロンビア大学大学院に留学しているときに、アメリカの文化施設は移動する人々や移民に積極的に教育機会を提供していることを知った。2015年現在では英語教育プログラムはニューヨーク公共図書館<sup>1</sup>だけでなく、博物館や美術館にも広がっており、この英語教育プログラムに対して移動する人々や移民からの需要があると感じた。そして、ニューヨーク公共図書館での英語教育プログラムを研究することは、日本の社会教育施設の新しい在り方、教育機会の拡大への示唆につながるのではないかと考えるようになった。本研究がニューヨーク公共図書館に着目するのは、本論で明らかにされるように、アメリカにおける文化施設の教育プログラムの充実が、その歴史においても見てとれるからである。

このような異文化間を移動する人々の教育を考えるにあたって、「移動する」という概念に関して、川上郁雄(2011)の『「移動する子どもたち」のことばの教育学』を参考にする。川上は「移動する」という概念を「空間的に移動する」、「言語間を移動する」、そして「言語教育カテゴリー間を移動する」と分析している<sup>2</sup>。本研究における移動する人々とは、長期的にアメリカに移住している移民だけでなく、同時に二つ以上の文化を保持し、もともと所属していた文化とは異なった文化で生活し、言語間を移動する人々のことを指すものとする。

以上の問題の所在から、異文化間を移動する人々にとって文化施設における学びはどのような意義をもっているのかを明らかにするために、ニューヨーク公共図書館の社会的意義と英語教育プログラムの内容を分析し、さらに参与観察とインタビュー調査で明らかにし、異文化間を移動する人々の学びの特徴を考察することが本研究の目的である。

### 第二節 先行研究の検討

本研究の主題は「異文化間を移動する人々の文化施設における学び」である。アメリカの文化施設の役割についての先行研究と、図書館の教育プログラムに焦点を当てた先行研究

<sup>1</sup> ニューヨーク公共図書館は、マンハッタン、スタテン島、そしてブロンクスに92の図書館分館を持っている。図書館での英語教育プログラムは2011年から実施された。(New York Public Library. (2014a). *Fiscal Year 2013-Annual Report*. Retrieved 10 December 2014, [https://www.nypl.org/sites/default/files/NYPL\\_Annual\\_Report\\_2013\\_0.pdf](https://www.nypl.org/sites/default/files/NYPL_Annual_Report_2013_0.pdf), p.7.)

<sup>2</sup> 川上郁雄(2011)『「移動する子どもたち」のことばの教育学』くろしお出版、6頁。

を検討した。

本研究の先行研究として挙げられる研究の領域の一つは、文化施設（図書館、博物館、美術館など）の意義や役割についてのものである。Carr, Falk, Fisher, Kranich, Taylor, Schull, Sternの研究を挙げることができる。

これらの研究は、文化施設や図書館の役割などについて、社会科学といった学問分野においてなされたものであり、総じて、文化施設が人々に果たすべき機能を示すといった特徴を有している。現代において重要性を強めている文化施設で実際に学ぶ人々の「学び」の問題の探究が本研究の課題であるが、そうした人々の「学び」に着目した研究はまだなされていない。

### 第三節 研究方法

ニューヨーク公共図書館で行われている英語教育プログラムに焦点を当て、具体的にどのような教育実践が行われているかを探るため、移動する人々や移民を対象とした英語教育プログラムにおける人々の学びについて考察する。

研究方法として、1. 文献による考察、2. 参与観察とインタビュー、3. 教材分析を行う。このような研究方法を踏まえ、ニューヨーク公共図書館における英語教育の事例を学びの視点から分析し考察する。実際に異文化間を移動する人々や移民に対して図書館でどのような英語教育プログラムが行われているかを調べ、そのプログラムを提供する人々と受講する人々の学びの特徴を明らかにする。

## 第一章 アメリカにおける公共図書館の社会的意義

第一節「公共図書館をめぐる法的規定と政策の変遷」では、公共図書館が果たす役割の変化を検討した。アメリカの図書館は移民に多くのサービスを提供してきた歴史があり、図書館は多様な民族性に深い理解を示し、サービスを提供する方法を模索する必要がある。

どのように図書館が発展を遂げたのかについて、20世紀、21世紀の図書館法や政策の変遷から考えた。1956年に成立した図書館サービス法 (Library Services Act: LSA)までは、連邦政府は図書館に関しては限定的な役割しか担っていなかった。しかし、この法を境として連邦政府の図書館への関与が拡大し、図書館の発展に重要な役割を果たした。この法律が初めて成立した1956年から現在の博物館・図書館サービス法 (Museum and Library Service Act: MLSA) にいたるまで、図書館の法的規定や政策を取り上げた。図書館法も社会の変化に伴いその時代に対応した法改正が行われ、図書館サービスの対象者も変化した。

第二節では公共図書館のサービスを受け取る利用者にも目を向けた（「第二節 公共図書館を利用する人々の変遷」）。18世紀、19世紀のマイノリティへの教育は「移民の社会的統制<sup>3</sup>」という役割が重要視されたことから明らかなように、図書館の役割も移民のアメ

---

<sup>3</sup> ハロルド・W. スタブルフィールド、パトリック・キーン (2007)『アメリカ成人教育史』(小池源吾・藤村好美訳) 明石書店、141頁。

リカへの同化と深く関連していると考えられる。しかし 20 世紀に入り、図書館の役割にはこれまで以上に変化が求められた。

図書館は人々の暮らしにおいて、より身近な存在となった。また、1960 年代に入り、公民権法など平等を求める法が設立されてからは、図書館利用の対象者が特別なサービスを必要とする人（老人や施設収容者、身体障害者、ネイティブ・アメリカン、英語を話すことができない移民<sup>4</sup>）へと拡大され、図書館は多様な文化背景をもつ人々に必要なサービスを提供し、多文化・多言語を受け入れる寛容な姿勢を示すようになった。

第三節「公共図書館の教育的役割」では、移動する人々や移民が多く混在するアメリカにとって、公共図書館はどのような教育的役割を担っているのかについて考察した。図書館の重要な役割は、1. 図書資料、情報、知識の提供、2. 情報や知識の習得方法の変化への対応、3. 英語を学ぶ人々のアメリカ文化への適応の支援と異文化理解への支援である。公共図書館の教育的役割は 1920 年代には成人教育を発展させることであったが、1960 年代の公民権運動以降においては、図書館は社会的弱者への教育にも積極的に取り組み、今まで図書館を利用することがなかった人々へのアウトリーチ・サービス<sup>5</sup>を行い、情報リテラシーを支援するようになった。アメリカの公共図書館における英語教育プログラムも、そのアウトリーチ・サービスの一環として教育的役割を果たしている。

## 第二章 ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラム

第一節「英語教育プログラムの理念と意義」では、図書館は複数の文化、複数の言語間を移動する人々に対しどのような取り組みをしてきたのか、その意義を明らかにした。多様な言語的・文化的背景を持った人々が共生するニューヨーク市において、図書館は多くの人々がアメリカについてだけでなく、多様な言語や文化についての理解や知識を深めることができるように支援している。ニューヨーク公共図書館は、生涯教育を推進すること、知識を深めること、コミュニティを強化することを「図書館の使命(ミッション・ステートメント)」として挙げている。

英語教育プログラムは移動する人々や移民を対象としており、「図書館の使命(ミッション・ステートメント)」で書かれていることは英語教育プログラムにも反映されている。ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムは様々な文化背景を持つ人々が共に学び、互いの文化について学ぶ機会を提供している。また、ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムは多様な文化的・民族的コミュニティが交差する場となっており、このプログラムを受講する機会をとおして、アメリカだけでなく、もともと所属していた文化、そして多文化に関心を持たせ、理解を促す役割を果たしている。

第二節「英語教育プログラムの実際」では、現在行われている英語教育プログラムの概要を取り上げ、ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムのカリキュラムと教材について

---

<sup>4</sup> 白石磨美・川戸理恵子 (2005)「第 5 章 アメリカの公共図書館」『諸外国の公共図書館に関する調査報告書』、152 頁。

<sup>5</sup> アウトリーチとは図書館サービスの圏域内であるにもかかわらず、これまでの図書館サービスが及ばなかった人々に対して、サービスを広げていく活動のことである。

て検討を行った。この英語教育プログラムのカリキュラムは、アメリカで生活していく上で必要なテーマを重点的に取り上げている。ニューヨーク公共図書館では様々な教材が使われているが、その一つに *We are New York*<sup>6</sup>がある。図書館はこのような教材を使うことによって、移民の共通した悩みを理解し、社会へ参加する援助を行っていると言える。

第三節「英語教育プログラムの課題」では、ニューヨーク公共図書館は多様な文化的背景を持つ人々を引き合わせ、多様なスキルを習得できるよう、更なる改善・改革が求められていることを取り上げた。まず、図書館のハード面に関する課題は、英語教育プログラムへの需要が高いけれども供給が追いついていないことであり、また、図書館の開館時間の長さである。次に、ソフト面に関する課題として、ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムの授業でも起きている教員不足や、授業での英語熟達度の異なる生徒への対応、情報開示などプログラムの透明性を維持する必要性、さらに、自国である程度の教育を得ている異文化間を移動する人々や移民への支援の欠如である。このように、ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムは、多くの成人に必要なスキルや学ぶ機会を提供する場として活用されているが、未だに課題が多いことが明らかになった。

### 第三章 ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムにおける学び

#### —参与観察とインタビューからの考察—

第一節ではニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムの参与観察とインタビューから、異文化間を移動する人々や移民の学びについて考察した（「参与観察・インタビューの結果」）。2014年2月2日から2月15日までの期間に、ニューヨーク公共図書館のハーレム図書館分館とセント・アグネス図書館分館にて、英語教育プログラムの初級と上級の5つの授業で参与観察し、英語教育プログラムのコーディネーター1人と教員3人にインタビューした。

インタビューから明らかになったことは、ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムは受講生が社会参加を行えるような取り組みを重視していることである。現在、図書館は地域の構成員が積極的に地域や社会に関わることができるような拠点となっており、ニューヨーク公共図書館も様々な活動を行うことにより地域の活性化に役立っていることを明らかにした。

第二節「英語教育プログラムにおける学びの特徴」では、英語教育プログラムを分析するにあたり「学び」の3つの相<sup>7</sup>を用いることで、学びの特徴を示すことができる。受講生は英語教育プログラムでの学習活動によって「世界」と出会い、アメリカ社会・アメリカ文化

---

<sup>6</sup> *We Are New York* はニューヨーク市の移民局が制作に関わったドラマであり、ニューヨーク市の公共図書館の英語教育プログラムで使われている。この作品はニューヨークに住む様々な文化的背景を持つ人々を対象に作られており、登場人物はすべて移民で構成されている。

<sup>7</sup> 「学び」の3つの相については、佐藤学（1998）『学びの快樂—ダイアログへ—』世織書房と樋口聡・山内規嗣（2012）『教育の思想と原理—良き教師を目指すために学ぶ重要なことから—』協同出版、134—163頁を参考にする。

への理解を深めることができる。ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムは移動する人々、そして移民自身の内的な世界構築の一助としての役割を担っていると考えられる。さらに受講生は、このプログラムでの他者との対話をとおしてしか知り得なかった他者の文化や歴史を体得し、そのような経験から他者理解を行い、コミュニティを構成している共同体のその他の構成員について知り、他者の存在を改めて実感することができる。このような世界との対話、そして他者との対話は受講生の自己理解につながり、受講生は、この英語教育プログラムでの経験を重ねていく中で、アメリカにいる自分自身やもともと所属していた文化について考える機会を得て、自己理解を深めているのである。そして英語教育プログラムを教えているコーディネーターや教員も、受講生同様に「学び」の3つの相をとおして、アメリカについて改めて知り、他者である受講生の文化の違いにも寛容に対応し、そして自己について、例えば教室で求められる役割などを改めて考えることにより、異なる文化を理解しようとする機会を持つことから、新たな自己形成に向き合おうとしていることが明らかになった。

補論で取り上げた「ニューヨーク市の博物館や美術館における学び」については、テネメント博物館、ホイットニー美術館、ニューヨーク市内の4ヶ所<sup>8</sup>の美術館で英語教育プログラムを行っている Cultures and Literacies through Arts for the 21th Century (CALTA21)の教育プログラムのエドゥケーターを対象に行ったインタビューをもとに考察した。

ニューヨーク市の美術館は地域の英語教育プログラムと連携し、受講生にアートの力を使った英語教育プログラムを行っている。ここで重要なことは、博物館や美術館で行われている英語教育プログラムは図書館とは異なったカリキュラムを持ち、受講生は博物館や美術館での美術品や展示をとおした英語教育プログラムによって、移動する人々や移民としての自分自身の経験を振り返り、その経験を捉えなおすという点である。このプログラムは受講生にこれまでの自己を振り返らせるための問いかけを行うことにより、受講生が自身のアイデンティティを見つめ直すことができるように構成されている。

## 終章

### 第一節 研究のまとめ

第一章「アメリカにおける公共図書館の社会的意義」では、アメリカにおける公共図書館が異文化間を移動する人々や移民に対してどのような役割を果たしていたのかを検討した。図書館法はアメリカの社会的変化にも対応した形で法改正を行っている。また、図書館法や政策の変化に応じて図書館を利用する人々も拡大し、アメリカの公共図書館は教育的役割を拡大していることを明らかにした。

第二章「ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラム」では、ニューヨーク公共図書館の多様なサービスの中でも、異文化間を移動する人々や移民がアメリカ社会で生活していく上で、英語教育プログラムは大きな役割を果たしていることを明らかにした。また拡大し

---

<sup>8</sup> CALTA21 と提携している美術館はニューヨーク市にある、エル・ムセオ・デル・バリオ、ルービン美術館、カトナ美術館、クィーンズカレッジのグッドウィン・ターンバック美術館である。

つつある英語教育プログラムを分析し考察することにより、図書館のハード面ならびにソフト面での課題を提示した。

第三章「ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムにおける学び—参与観察とインタビューからの考察—」では、ニューヨーク公共図書館、博物館や美術館の英語教育プログラムの学びの特徴を検討した。ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムの受講生は、自分達の母国語とは異なった「異文化」を形成している言葉をとおして学び、その中で、世界構築、他者理解、自己理解を行う。言葉を核として取り上げている英語教育プログラムにおいて、人々は理解に伴う違和感を抱え、フラストレーションを持ちつつも、異文化・多文化を理解しようと対話的实践を繰り返し行うことにより学んでいく、そしてそのことが、理解にとどく楽しさを生み出していくという、英語教育プログラムにおける学びの特徴が明らかになった。

また、補論において、ニューヨーク市のテネメント博物館、ホイットニー美術館、そしてCALTA 21の取り組みから、移動する人々や移民への博物館や美術館における英語教育プログラムについて検討した。その結果、博物館や美術館における英語教育プログラムは、図書館の英語教育プログラムの生活するための英語という側面より、アートの力を使いながら自己のアイデンティティとの関わりを重視したカリキュラムによって、世界構築、他者理解、自己理解が行われていたことが明らかになった。

終章では本研究のまとめとして、ニューヨーク公共図書館がどのように移動する人々や移民に対して英語教育プログラムを提供しているのかということ振り返り、日本においても増えるであろう日本語を母国語としない人々に対する日本の社会教育施設における教育機会の拡大の必要性、教育の取り組みの現状と今後の在り方について若干の検討を行った。具体的には、ニューヨーク公共図書館の英語教育プログラムを参考にし、日本の図書館における教育プログラムの拡充の必要性を述べ、「日本語教育プログラム」を発展させ、展開していくことの重要性を示唆した。

## 第二節 日本の公共図書館の日本語教育プログラムへの示唆

アメリカの文化施設と日本の社会教育施設を取り巻く状況や成り立ちは、それぞれ異なっている。アメリカの図書館は移動する人々に対して英語教育プログラムをとおして様々な学びを提供しており、図書館がこのような活動を行うことは図書館法や政策の中にも盛り込まれている。日本の図書館で日本語教育プログラムを行うためには、社会教育法や図書館法の法的規定の拡充が求められる。例えば、サービスの受容者が「国民」に限定されていることの拡充などである。

アメリカの公共図書館の英語教育プログラムに相当する日本の図書館サービスとして、「日本語教育プログラム」の開発・運営を行うことが必要である。プログラムのコーディネーター、教員、受講生ともに多文化・多民族の社会に寛容な姿勢を持ちつつ、分からないことと対話を繰り返すことにより異文化理解を行うことができる学びの場所を提供する必要がある。

本研究で取り上げた英語教育プログラムは移動する人々や移民の文化に理解を促すものである。アメリカの図書館と美術館の取り組みを研究することは、これからの時代に求められる英語教育プログラムを開発するにあたって、またグローバル化の時代の日本におけ

る日本語教育プログラムや異文化の理解に関しても、貢献することができるものであると考えられる。

### 第三節 今後の研究課題

本研究では、受講生の学びを参与観察、コーディネーターと教員へのインタビューをとおして明らかにした。また、公共図書館で英語教育プログラムを教えている教員やコーディネーターの学びについても明らかにした。本研究ではニューヨーク市のニューヨーク公共図書館で行われていた英語教育プログラムに限定したが、例えば、アジア系やラテン系など様々な民族的特性が色濃く反映されている地区で行われている英語教育プログラムでは、どのような学びが行われているのかが今後の研究課題となるだろう。

また、異文化間を移動する人々が多く、様々な文化背景を持つ人々を抱えているイギリスのロンドンやオーストラリアのメルボルンなどの大都市の文化施設での教育プログラムも今後の研究対象として考えられる。それぞれの国の図書館、博物館や美術館における英語教育プログラムでの学びがどのようなものであるのかが検討課題である。

日本における日本語教育プログラムでの学びの問題も課題である。異文化間を移動する人々の学びに焦点を当て研究を行うにあたって、その対象者として、インターナショナル・スクールで学ぶ学生、日本で学ぶ留学生、日本から海外に留学する日本人学生なども挙げられる。実際に人々が異文化間を移動することが、どのように世界構築、他者理解、自己理解に影響するのかということが研究課題として考えられる。

#### IV. 主要参考文献

- ニューヨーク公共図書館 コーディネーター. インタビュー. 2014年2月4日.
- ニューヨーク公共図書館 教員 A. インタビュー. 2014年2月4日.
- ニューヨーク公共図書館 教員 B. インタビュー. 2014年2月4日.
- ニューヨーク公共図書館 教員 C. インタビュー. 2014年2月12日.
- テネメント博物館 エducレーター. インタビュー. 2014年2月11日.
- ホイットニー美術館 エducレーター. インタビュー. 2014年2月7日.
- Cultures and Literacies Through Art for the 21<sup>st</sup> Century 創設者. インタビュー. 2014年2月6日.
- Carr, David. (2003). *The Promise of Cultural Institutions*. Lanham, MD: AltaMira Press.
- Center for an Urban Future. (2013). *Branches of Opportunity*. Retrieved 15 May 2015, [http://nycfuture.org/images\\_pdfs/pdfs/BranchesofOpportunity.pdf](http://nycfuture.org/images_pdfs/pdfs/BranchesofOpportunity.pdf).
- Cohen, David. (1980). Ethnicity in Librarianship: A Rational for Multiethnic Library Service in a Heterogeneous Society. *Library Trends*, 29(2), 179-190.
- Craig, Edward. (ED.) (1998). *Routledge Encyclopedia of Philosophy*. New York: Routledge, 624-640.
- Cultures and Literacies through Art for the 21<sup>st</sup> Century. (2014). *CALTA 21 Curriculum*. Retrieved 15 May 2015, <http://www.calta21.org/resources-calta21-curriculum/>.
- Falk, John H. and Lynn D. Dierking. (1995). *Public Institution for Personal Learning: Establishing a Research Agenda*. Washington D.C.: American Association of Museum.
- Falk, John H. and Lynn D. Dierking. (2000). *Learning from Museums: Visitor Experiences and the Making of Meaning*. Lanham: Alta Mira Press.
- Falk, John H. (2005). Free- Choice Environmental Learning: Framing the Discussion. *Environmental Education Research*, 11(3), 265-280.
- Fisher, Karen E. et al. (2004). Information Grounds and the Use of Need-Based Services by Immigrants in Queens, New York: A Context-Based, Outcome Evaluation Approach. *Journal of the American Society for Information Science and Technology*, 55(8), 754-766.
- Foner, Nancy. (2013). *One Out of Three: Immigrant New York in the Twenty-First Century*. New York: Columbia University Press.
- Freeman, S. Robert and David M. Hovde. (2003). *Libraries to the People: Histories of Outreach*. North Carolina: McFarland & Company, Inc.
- Hein, George E. (1998). *Learning in the Museum*. New York: Routledge.
- Hooper-Greenhill, Eilean. (1994). *The Educational Role of the Museum*. Oxon: Routledge.
- Knowles, Malcolm S. (1994). *A History of the Adult Education Movement in the United States*. Malabar, FL: Krieger Publishing Company.
- Kranich, Nancy. (2005). Civic Partnerships: The Role of Libraries in Promoting Civic Engagement. *Resource Sharing & Information Networks*, 18(1-2), 89-103.
- Kranich, Nancy. (2010). Promoting Adult Learning through Civic Discourse in the Public Library. *New Directions for Adults and Continuing Education*, 127, 15-24.

- Monroe, Margaret E. (1981). The Cultural Role of the Public Library. *Advances in Librarianship*, 11, 2-49.
- New York City Mayor's Office for Immigrant Affairs. (2012). *We Are New York: Practice English*. Retrieved 15 January 2015, <http://www.nyc.gov/html/weareny/html/home/home.shtml>.
- New York Public Library. (2013). *Immigrant Service*. Retrieved 10 January 2013, <http://www.nypl.org/help/community-outreach/immigrant-services/>.
- New York Public Library. (2014a). *Fiscal Year 2013-Annual Report*. Retrieved 10 December 2014, [https://www.nypl.org/sites/default/files/NYPL\\_Annual\\_Report\\_2013\\_0.pdf](https://www.nypl.org/sites/default/files/NYPL_Annual_Report_2013_0.pdf).
- New York Public Library. (2014b). *NYPL's Mission Statement*. Retrieved 15 November 2014, <http://www.nypl.org/help/about-nypl/mission>.
- Patton, Michael Q. (1980). *Qualitative Evaluation Methods*. Beverly Hills, CA: Sage Publication Inc.
- Price, Marie and Lisa Benton-Short. (2008). *Migrants to the Metropolis: The Rise of Immigrant Gateway Cities*. New York: Syracuse University Press.
- Schull, Diantha. (2004). The Civic Library: A Model for 21<sup>st</sup> Century Participation. *Advances in Librarianship*, 28, 55-81.
- Stern, Stephen. (1991). Ethnic Libraries and Librarianship in the United States: Models and Prospects. *Advances in Librarianship*, 15, 77-102.
- Taylor, Edward W. (2010). Cultural Institutions and Adult Education. *New Directions for Adult and Continuing Education*, 127, 5-14.
- Tenement Museum. (2015). *Shared Journey*. Retrieved 10 February 2015, [http://www.tenement.org/shared\\_journeys.php](http://www.tenement.org/shared_journeys.php).
- U.S. Citizenship and Immigration Services. (2006). *Library Services for Immigrants: A Report on Current Practices*. Office of Citizenship. Retrieved 15 April 2015, <http://www.uscis.gov/sites/default/files/>.
- Whitney Museum of American Art. (2014). *Community Partnerships*. Retrieved 10 January 2014. <http://whitney.org/Education/Community/Programs/Partnerships>.
- 川上郁雄 (2011) 『「移動する子どもたち」のことばの教育学』くろしお出版。
- 川崎良孝 (2003) 『図書館の歴史—アメリカ編 増訂第2版—』日本図書館協会。
- 佐藤学 (1998) 『学びの快樂—ダイアローグへ—』世織書房。
- 白石磨美・川戸理恵子 (2005) 「第5章アメリカの公共図書館」『諸外国の公共図書館に関する調査報告書』、150—180頁。
- スタブルフィールド W. ハロルド、パトリック・キーン (2007) 『アメリカ成人教育史』(小池源吾・藤村好美訳) 明石書店。
- 樋口聡 (2008) 「異文化理解と教育—オーストラリアにおける事例観察と問題の展望—」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第一部 第57号、17—26頁。
- 樋口聡・山内規嗣 (2012) 『教育の思想と原理—良き教師を目指すために学ぶ重要なことから—』協同出版。
- 文部科学省 (2006) 『これからの図書館像—地域を支える情報拠点をめざして—』 [http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/286184/www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/18/04/06032701/009.pdf](http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/286184/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701/009.pdf), (2014年5月10日参照)。